

平成19年12月13日

山武市長 椎名 千収 様

蓮沼地区地域審議会

会長 今 関 紘

意見書

新市のまちづくりにあたり、平成19年5月16日、蓮沼地区地域審議会は市長へ意見を提出しました。その意見の一つとして、海岸地域を新市の海浜リゾートゾーンとして整備し、その価値が高められるよう検討していただきたく提言したところです。その中でも、この地域の発展、活性化の一翼を担う道路として位置づけている主要地方道飯岡一宮線バイパス（蓮沼海浜公園1号線）について、蓮沼地区地域審議会では、重要事項の一つとして審議をおこなっていたところです。

については、主要地方道飯岡一宮線バイパスが早期完成されるよう県への働きかけを積極的に推し進めていただきたく次のとおり提言いたします。

記

本路線（主要地方道飯岡一宮線バイパス）は、九十九里沿岸の産業はもとより、千葉県東部地域の観光レクリエーションと成田方面への交通アクセスの向上に大きく寄与する重要な路線として位置づけられている。山武市において、海岸地域の経済効果を向上させる上でも重要な路線であることから県に対して積極的な働きかけをおこなっていくことが必要である。

現在、作田川、木戸川における橋梁が未整備であることから、山武市は本路線における効果が得られていない。特に木戸川橋梁の未整備は、市を二分することになり、成東地区と蓮沼地区の海岸レクリエーションゾーンの一体性が損なわれている。

この地域の一体的な発展と活性化を目指すために、この地域の骨格をなす本路線が寸断されていることは大きな障害であり、観光資源に対する集客効果が薄れ

る原因の一つである。特に木戸川橋梁については、積極的な姿勢のもと、県への働きかけをおこなっていただきたい。

また、地域の安全・安心の環境をつくりあげるためにも、本路線の早期完成が必要である。現在の本路線は、未整備区間が存在していることから、本来の地域間連携道路としての役割が果たされていない。そのため、従来の飯岡一宮線が利用されることになり、本地域における当該路線では、生活道路と地域間連携道路としての役割とが混在することから市民の安全が損なわれている。

本路線を完成させることは、本地域の安全・安心の環境を構築する手段でもある。各路線の求められている役割を明確にし、本路線は、地域間連携道路として、従来の飯岡一宮線は地域の生活道路としての役割を持たせ、目的にあった利用がされる地域環境の構築を望む。

以上